

北海道の未来まちづくり

再開発の動きが活発だ。だが、これには「再生可能エネルギー」「歴史的建造物」「AI」「観光」など、可能性ある分野を最大限に活用することが求められている。

ここでは、世界、国、地域を代表するメンバーに、ミクロからマクロまで、多彩な視線で語ってもらった「北海道の未来まちづくり」をテーマとする座談会を収録した。(収録・10月11日)

価値ある資産が眠る北海道

藤崎 今回の座談会は「北海道の未来まちづくり」をテーマに行います。今般はSDGsの取り組みや再生可能エネルギーの普及も活発ですが、とりわけ北海道にふさわしいまちづくりはどういった視点が肝要なのか。それぞれの専門的な立場から、今年も忌憚ない議論を期待したい。

まずは地域のまちづくりについて、中村代議士に口火を切って頂きたい。

中村 後志管内で申し上げると、歴史的建造物をうまく活用したまちづくりが活発です。北のウオール街もインスタ映

えするスポットとして人気で、2022年にはニッカウキスキー北海道工場と、旧三井銀行小樽支店が国指定の重要文化財に指定されました。こうした建造物が大切に保存されているのが後志、小樽であって、観光客を集客する大きな素材にも、地域のシンボルにもなっているわけです。

ウダースノーを求める大勢の客が押し寄せ、これによって世界中から投資が集まりました。環境や自然保護の観点から、行政が一定程度の規制をかけなければならぬほどです。倶知安は北海道新幹線の駅が開業する以上、ある程度のシテイ型都市にならざるを得ないとは思いますが、可能な限り環境に配慮した、世界から憧れるまちにしたいかなければなりません。

限 中村代議士がおつし



建築家 隈 研吾氏



FM協会専務理事 藤崎 昌甫氏

やった環境と保存は、これからのまちづくりにおいて極めて重要なキー

ワードです。世界各国で建築物を設計していると、「日本はやつと世界基準に追いついた」と、そのような印象を覚えます。例えば、中国は「環境と保存」に対する意識が極めて高い。ビルなどのエネルギー消費についても日本以上に厳しい基準が設けられています。良し悪しはともかく、建築基準をクリアした建設中の建物でも、新たな基準が適用されれば設計のし直しが求められるほどです。

と云えるわけですね。小樽の歴史ある建物をひとつの経済的な価値、資産として捉え、新しいビジネスにつなげていく。またはそういった建物

をリノベーションすることで、新たな価値を創出していく。北海道はまだまだこうした価値、資産が残っている場所で、いままその価値は上がっていると云えますね。

新たな公共交通システムの整備

藤崎 ではここで札幌の再開発について伺いたい。

天野 札幌市はこれまで「魅力的な都市空間を創り、北海道経済を牽引していく」という観点のもと、豊かな市民生活を実現させるためのまちづくりを進めています。

今もまちの魅力向上、市民生活の質の向上を図るため、エネルギー政策と一体となった都心部のまちづくりを展開しているところなんです。

として挙げられるのは、北海道新幹線の札幌延伸ご承知の通り、今もこれと連動したさまざまな計画が進行中です。

生島 新幹線の札幌駅が完成した際、2次交通の課題があると思いますが、詳細を。

天野 北海道新幹線と連携した広域交通ネットワークの形成のために、都心アクセス道路の整備を計画しています。都心部と札幌自動車道をつなぐための、これは国が実施する事業ではありま



帯広商工会議所会頭 川田 章博氏



札幌市副市長 天野 周治氏



衆議院議員 中村 裕之氏

生島 小樽の例は世界的にも成功しているモデル

都心のまちづくりを取り巻く大きなトピックス

すが観光振興、物流防災、広域の医療体制強化など、北海道全体に大きな効果



FM協会会長 生島 典明氏



狸小路商店街理事長 島口 義弘氏



(株)教育施設研究所顧問 新保 幸一氏



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)